



いちご新規就農者研修所において研修中の森氏

概要

◆氏名・所在地

森 功一 岐阜県岐阜市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

岐阜県内でいちご農家を志し、JA全農岐阜「いちご新規就農者研修所」にて、生産技術から農業経営に必要な知識を習得できる14ヶ月間の研修に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

21年間接骨院で院長をしていたが、3年前から何かで起業したいと思った。情報収集する中で農業をやりたいと思うようになった。

そこで、**就農相談から研修、就農、営農定着までワンストップで対応する農業支援窓口「岐阜県農業経営・就農支援センター（ぎふアグリチャレンジ支援センター）（以下「支援センター」という。）**へ相談した。

2

相談内容

いちごで就農を考えている。今後**独立就農して、本格的にいちご栽培を行いたい。**

しかし、農地は所有しておらず、栽培技術の基礎的な知識もないので、就農に向けた栽培技術の習得方法、農地の探し方や活用できる補助金・資金などの制度について知りたい。

3

支援内容

●研修機関等の紹介や研修先の決定

支援センターでは、**就農までの流れや就農関連イベント、農業の基礎技術を動画で習得できるゼミを紹介した。**

また、県内でのいちご栽培の年間作業や栽培方法の概要を説明し、**技術習得できる研修先や就農準備資金、経営開始資金、認定新規就農者制度等についても説明した。**

また、相談者の意向をふまえ、いちご産地にある**就農候補地に拠点を置きJA全農岐阜が運営する「いちご新規就農者研修所（以下「研修所」という。）**やJAの窓口を紹介した。

その後、研修所の研修生募集に応募され、審査を経て令和6年4月から14ヶ月間の**研修を開始した。**

●関係機関との連携による取組み

研修所において栽培技術や経営管理知識の習得を支援するとともに、研修所と普及指導センターが連携し、必要な農地の確保、施設の設計、補助事業の申請手続き、等の就農準備について一貫してサポートしている。

今後も市町村等と連携して、引き続き就農に向けて支援していく。

●就農市町村の決定

すでに、研修所からの紹介で今後借りることのできる農地の確保に目処が立っており、また地域住民とのつながりも良好であるため、**研修期間了後には地域への円滑な定着が期待できる。**



ぎふアグリチャレンジフェアでの就農相談



いちご新規就農者研修所の研修状況

今後の意気込み

農業に関して何もわからない所から、就農に向けた手順を丁寧に教示いただき、研修所への入所に踏み出す事ができました。

まだ知識・経験不足で手探り状態ではありますが、就農後も成長していけるよう、技術や経営知識の向上に取り組んでいきたいと思います。

専属スタッフ所感

支援センターは、ワンストップ農業支援窓口として、就農希望者の相談対応や就農候補市町村等との調整を行っています。相談者が聞きたい内容は、多様化、複雑化しておりますが、関係機関と連携して迅速かつきめ細かく対応しております。

今回の相談者は、就農したい品目や就農したい地域も決まっていたため、栽培技術が習得できる研修先に入れるよう対応しました。



愛西市で就農した成田氏

概要

◆氏名・所在地

成田 俊介 愛知県愛西市

◆就農年

令和6年6月

◆経営規模

イチゴ 0.19ha

◆従業員数

なし

◆事業内容

J A あいち海部の「あまイチゴ組合」に所属し、イチゴの土耕栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

前職では仕事中心の生活だったが、育児休業を取ったときに家族と過ごす時間の大切さを感じた。**ワーク・ライフ・バランスの維持**、自身が自然が好きなことや段取りを考え体を動かすことが好きなことから農家になろうと決心した。県内の果樹産地や、新・農業人フェアなどで他県の情報を収集した。その中で、農業大学校に就農相談窓口がある**愛知県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）**で開催されている就農相談に参加した。

2

相談内容

農業経験がないため、**栽培品目と技術及び基礎知識習得が必要**だったので、どこでどの品目で就農すればよいかわりたかった。

また、**就農のため具体的にどのような準備**をしなければならぬかも相談した。

3

支援内容

●研修先の決定

地元の J A あいち海部あまイチゴ組合にイチゴの研修機関（通称、いちご道場）が設置されることを**支援センター**から情報提供した。また、**相談結果を J A、愛西市、普及指導センターへ引き継ぎ**、関係機関と連携して支援を行った。

●技術・知識の習得に向けた支援

いちご道場の面接を経て、令和4年6月から**2年間のカリキュラムで研修**を行った。1年目は複数の受入農家での実習及び普及指導センターによる座学、2年目は専任農家での実習によって、イチゴの栽培基礎技術と知識を習得した。



経営計画の作成に関する相談対応

●初期投資軽減のための支援

研修初期から**いちご道場が把握した農地、空きハウス・中古機械類の情報を研修生に提供**して、初期投資額をできるだけ抑制するよう就農に向けた支援を行った。

●関係機関との連携による取組

経営計画を検討して青年等就農計画の作成を J A、愛西市、普及指導センターが支援した。また、施設整備に対する補助事業の活用や融資においても関係機関が適切な支援を行い、必要な整備を推進した。研修期間中から J A や普及指導センターが開催するセミナーにも参加を促し、幅広い知識の習得と人脈づくりを行った。



「いちご道場」での農家実習

今後の意気込み

研修等を通じて、受入農家や関係機関から多くの支援を受け、就農までの課題を解決できました。

まだ農業経営は手探り状態ではありますが、「自分で決めたことを、しっかりと取り組んでいく」ために、研修期間中に培った先輩農家の方々や関係機関とのつながりを大切にしていきたいと思っています。

専属スタッフ所感

支援センターでの情報提供が就農につながり良かったです。ご本人の努力もさることながら、受入農家、J A はじめ関係機関の支援の成果であると思います。新規参入者は産地に新たな刺激をもたらすので、経営発展を期待しています。今後も関係機関と連携した就農・定着支援をします。



農作業に取り組む様子

概要

◆氏名・所在地

坂本 泉 三重県松阪市

◆就農年

令和7年4月

◆事業内容

雇用就農先で水稻の栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

岡山県の大学在学時に日本の稲作が抱える様々な問題(高齢化、後継者不足、低所得等)を知り、これを解決したいと思い稲作を志した。卒業後、いくつかの農業法人で働き稲作の技術・経験を積み。最終的に愛知県の大規模農業法人で6年間働き、マネジメントの業務にも携わってきた。独立して、自らが稲作を始めようと考えていたところ、ホームページをみて、「農業経営・就農支援センター(以下「支援センター」という。)」を知った。

2 相談内容

これまでの就農経験から、農業経営や栽培技術に関する知識・経験はあるものの、独立して大規模な稲作経営をめざす上で、**三重県内の平野でまとまった農地を確保することができるのか教えてほしい。また、資金面での具体的なアドバイスがほしい。**

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

三重県で人縁・地縁がない中、すぐに独立して稲作経営を開始することは、初期投資が高額であるうえに、すぐにまとまった農地を見つけることは難しいことを理解してもらい、**優先的な農地の提供と事業化にむけたサポートを行う支援センター主催の「みえ農業ビジネスプランコンテスト」(以下「コンテスト」という。)**に応募するよう提案を行った。

●雇用就農先の紹介

相談者が、コンテストで優秀提案者となったことを受けて、**支援センターと農業改良普及センターが連携して**、相談者に適した事業承継を前提とした雇用先候補を選定し、**相談者を交えて候補の農業法人と複数回面談した上で、雇用就農を決定した**(令和7年4月雇用就農見込)。

●関係機関との連携による取組

農業改良普及センターと連携し、**雇用就農先の農業法人の労務管理等の態勢整備に向けた支援を行うとともに、将来の第三者承継が円滑に進むよう引き続き支援していく。**

また、相談者は雇用就農先の農業法人で栽培技術や農業経営の実践に取り組みつつ、地域での信用が増していくに伴い、経営規模を拡大していくことを目指していることから、必要な都度、農業経営や農地拡大のための支援をしていく予定である。



コンテストのプレゼン審査の様子



コンテストのプレゼン審査の様子

今後の意気込み

紹介いただいた農業法人の社長とは、何度も面談して、事業承継の意向や現状の経営状況等を詳しく説明していただきました。承継候補者として快く受け入れてもらい、夢の実現に向けて応援もするとおっしゃっていただいております。

支援センターの方には親身になってサポートいただき大変感謝しております。

これからが夢の実現に向けてのスタートになりますので、引き続きサポートいただけることを期待しつつ、一步一步確実に夢の実現に向けて邁進していきます。

専属スタッフ所感

相談時から、本人の農業経営に対する熱い思いがうかがわれ、これまでの知識と経験も十分である上に農業経営を数字で管理するなど、有望な人材であると思いました。このような人材が三重県で農業を始めたいと思っていただいたことに大変感銘を受けました。

今回、本人の希望が叶うよう、初期投資を抑えつつ、まとまった農地で営農できるような農業法人を見つけることができました。農業法人からも良い人材を紹介してもらったと評価していただいています。今後、三重県の若手担い手として、農業改良普及センターと連携しながら、引き続きフォローしていきます。